

終戦から70年。先の大戦を記憶する体験者が高齢化し、その声を聞くことが年々困難になってきた。惨禍を二度と繰り返さないために、その記憶を後世に伝えたい。今回は、史上初の原子爆弾が投下されたヒロシマで、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の館長を務める、門徒推進員の沖中伸二さんの寄稿文を紹介する。

いのちの尊厳を見失った人間に伝える

「ヒロシマで生きるものの役目」

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

館長 沖中 伸二さん

平和を願う 1人の人間として



国立広島原爆死没者追悼平和祈念館（祈念館）は、国とすることによって原爆の脅威を示し、被爆の実相を伝えていく。被爆死没者の尊厳を犠牲にして追悼の意を表すことも、永遠の平和を願い、原爆の惨禍に関する全世界の人々の理解を深め、その体験を後代に継承するための施設として2002年8月に開館しました。平和記念資料館（資料館）には行ったことがあるが、祈念館には…、という人が多いた。慰霊碑周辺に配慮し、かつ公園全体と調和を図るために大部分の機能を地中化し、施設が目立たなくなっていることが要因の一つにあげられると思います。

2011年3月11日に起こった東日本大震災による福島第1原子力発電所の事故。これまで私たちは、原子力発電は安全で、必要不可欠なものと思ってきましたが、原子力に対する「安全神話」は打ち砕かれてしまいました。廃炉、汚染水の処理、除染作業など、事故処理の収束にはまだまだ長い時間と莫大な経費がかかるようです。また、人体への影響も心配されており、住民は、計り知れない不安の中で避難生活を余儀なくされています。

は、被爆体験を風化させることなく、将来にわたって国内外の多くの人々と核兵器廃絶に向けた思いを共有していくためにとても重要です。争いのない平和な社会をつくるには、私たちは、人との尊厳を繋がりの中で生きていくことを忘れず、いつも感謝の気持ちを持ち続けることだと思います。「おかげさま」「ありがとう」と言える世界では争いは起こりません。できるだけ相手に寄り添って、苦しみや悲しみを共有することがとても大切なことだと思います。希望や夢を持って、いきいきと生活ができる社会をつくるために、まずは自分が努力しなければなりません。

祈念館では、原爆で亡くなった方々の遺影（写真）の登録、被爆体験記、追悼記などの資料収集やそれらを活用して被爆体験記の朗読会や被爆体験記の多言語化などを行っています。また、被爆証言ビデオの制作も行い、館内での公開やインターネットで国内外に発信しています。資料館

は主に遺品（もの）を展示することによって原爆の脅威を示し、被爆の実相を伝えていく。被爆死没者の尊厳を犠牲にして追悼の意を表すことも、永遠の平和を願い、原爆の惨禍に関する全世界の人々の理解を深め、その体験を後代に継承するための施設として2002年8月に開館しました。平和記念資料館（資料館）には行ったことがあるが、祈念館には…、という人が多いた。慰霊碑周辺に配慮し、かつ公園全体と調和を図るために大部分の機能を地中化し、施設が目立たなくなっていることが要因の一つにあげられると思います。

老若男女、無差別に殺りくし、今もなお、放射線被爆で苦しんでいる被爆者が現実存在する事実をしっかりと受け止め、核兵器保有国の為政者は、核兵器は絶対悪であることを広島に来て認識してほしいと思います。核兵器は廃絶しなければなりません。使えば、地球が破滅してしまいます。

沖中 伸二さん「広島となった。市安佐北区・報恩寺の門徒推進員。」

1994年、地方都市習し交流を深めるという高蔵浩亮住職の勧めで、では初となるアジア競一館一地域応援事業を安芸教区広島北組の門徒技大会開催時に、広報発信。広島市原爆被爆者推進員養成連続研修会に課でパブリシティーを協議会事務局長などを歴

参加し、2011年に中担当。地区公民館単位任し、2012年から現職。65歳。

それぞれ決め、事前にその国の歴史や文化などを習し交流を深めるという高蔵浩亮住職の勧めで、では初となるアジア競一館一地域応援事業を安芸教区広島北組の門徒技大会開催時に、広報発信。広島市原爆被爆者推進員養成連続研修会に課でパブリシティーを協議会事務局長などを歴参加し、2011年に中担当。地区公民館単位任し、2012年から現職。65歳。

それぞれ決め、事前にその国の歴史や文化などを習し交流を深めるという高蔵浩亮住職の勧めで、では初となるアジア競一館一地域応援事業を安芸教区広島北組の門徒技大会開催時に、広報発信。広島市原爆被爆者推進員養成連続研修会に課でパブリシティーを協議会事務局長などを歴参加し、2011年に中担当。地区公民館単位任し、2012年から現職。65歳。